



講師 経営学部 日置 弘一郎 教授

漬け物の経営学

鳥取県立図書館

5/7(土)
10:30~12:00

漬け物は非常に多様である。野菜の漬け物だけではなく、肉や魚・卵の漬け物があるし、すしも最初は漬け物であった。当初は保存の目的で作られたが、次第に家庭だけではなく、商売として漬け物が作られるようになり、商品としての漬け物はおいしいから食べるという趣味食に変わっていった。現在の漬け物の食品としての意味を考えながら、商品としての漬け物を考える。

ブランド魚

西部サテライトキャンパス

5/14(土)
10:30~12:00

ブランドのついた魚がいる。ブランドをつけることはどのような意味があるのだろうか。また、その条件を満たすブランド魚はどのようなものか。ブランドの意味はかなり多様であり、どのような条件がブランドを成立させているか、肉や野菜と対比しながらブランドの意味を考えていく。



講師 人間形成教育センター 千葉 雄二 教授

地域の構造、課題と展望

鳥取県立図書館

2017 3/4(土)
10:30~12:00

西部サテライトキャンパス

2017 3/11(土)
10:30~12:00

地域の持続性や都市との格差は正に対して、現在進行中の地方創生をはじめ多くの政策が実施されてきましたが、状況はむしろ厳しさを増しています。特に山陰と東北、四国、九州の一部の県では所得順位の低さや国への財政依存度の高さなど共通した特徴があり、しかも固定化の傾向があります。固定化の原因は国の経済成長力の低下などありますが、地域の自律的展開を阻む何らかの構造の存在が考えられます。このような視点に立てば、地方創生には対症療法的政策ではなく構造を解体し自律的な地域に再構成していくことが求められます。本講座では、鳥取県と県内19市町村を対象に、47都道府県、全国の市町村との比較を通じ、構造問題を明らかに地域の再生と展開を考えていきます。



講師 経営学部 矢野 順治 教授

デリバティブ市場入門

西部サテライトキャンパス

6/4(土)
10:30~12:00

鳥取県立図書館

6/18(土)
10:30~12:00

情報技術の急速な進展とともに、金融取引のあり方も大きく変貌してきています。いままでは、技術的に取引不可能と思われていたオプション、スワップ取引などのデリバティブ商品取引(金融派生商品取引)が急増しています。最近では、金融取引に関わるリスクそのものも取引されるようになってきました。これらの新しい金融派生商品市場は、株、債券、預金といった伝統的金融市場に比べると何かよくわからないもの、難しそうなのというイメージが強いとおもいます。この講義では、まず先渡取引、先物取引、オプション、資産流動化・証券化取引について分かりやすく説明します。最後にこれらの新しい金融市場が経済的にどのような機能を果たしているかを説明します。



講師 経営学部 高井 亨 准教授

サステナビリティを測る

倉吉交流プラザ

7/23(土)
10:30~12:00

サステナビリティ(持続可能性)の概念が提唱されてから四半世紀の月日が経ちました。その間、社会は持続可能な状態へと近づいたのでしょうか。本講座ではこの問を皆さんと一緒に考えたいと思います。まずは社会が「持続可能」であるとはどのような状態かを考えてみます。サステナビリティは「環境」「経済」「社会」の3要素から考えるというのが、主流的な考え方です。では実際に社会が持続可能かどうかは、どのようにしてわかるのでしょうか。この問いの答えは実は簡単ではありません。しかし、いくつかの「指標」によってサステナビリティを測ることが試みられています。そのようなアプローチについてご紹介します。



講師 環境学部 松村 治夫 教授

ごみと海の関わり — 世界的課題となった海ごみ問題 —

鳥取県立図書館

11/5(土)
10:30~12:00

西部サテライトキャンパス

11/12(土)
10:30~12:00

倉吉 BYヨシダ

11/26(土)
10:30~12:00

私達が使っている「もの」は、その多くがいつかは「ごみ(廃棄物)」になります。ごみ回収に出されずにポイ捨てされたごみは、その多くが風雨によって側溝から水路に入り、やがては川ごみとなって海に流れていきます。昨年6月にドイツ・エルマウで開かれたG7サミット的首脳宣言では初めて海ごみ問題が取り上げられ、「海洋を浮遊するプラスチックごみが世界的課題を引き起こしている」として、国際的な対策を進めていくことが表明されました。とくに環境中で劣化して微細化した海洋中のプラスチック破片(マイクロプラスチック)による生態影響の実態が明らかになるにつれて、海洋生物等への深刻な影響が予測されています。「ごみ」を直視してより深く考えることにより、皆でこの問題解決に取り組ましましょう。



講師 環境学部 中橋 文夫 教授

緑は大地のお医者様

西部サテライトキャンパス

2017 2/11(土)
10:30~12:00

鳥取県立図書館

※「未来をひらく鳥取学」特別講座

2017 2/18(土)
10:30~12:00

鳥取の大地は緑豊かである。流域で見ると、奥山の緑は森の浸透水を貯える「水源涵養」の機能を持ち、里山の緑は「人と自然とのふれあい」の場を提供する。市街地の緑は「快適な都市景観」を創出し「災害時の避難地」としても利用される。夏場には「ヒートアイランド現象」を抑制し、通年に渡り「CO2」を固定することから地球環境問題にも貢献する。このように緑は、自然と住民を守り、人・生き物・地球に優しい環境をつくり、うるおいのある街並みを形成する。ゆえに「緑は大地のお医者様」と言えまいか。今日期待されるのは、緑を通じて人との交流が活発になるコミュニティデザインの普及だ。それは、2013年度全国都市緑化フェアととり大会の波及効果でもある。大地の緑がオアシスになることを願って、こうした視点からお話します。

社会人キャリアアップ講座



講師 経営学部 染谷 治志 教授

社会人セミナー

暮らしの未来とICT — ICT端末の新形態 —

まちなかキャンパス

6/24(金)
18:30~20:00

情報通信技術(ICT)の歴史は、利用者の視点で振り返った場合、ICT端末の歴史であると言ってもよいかもしれません。近年のICT分野の進化を牽引しているICT端末がスマートフォンであることは、恐らく異論のないところだと思います。コンパクトでありながら高度な機能を備えたスマートフォンの普及は、私たちの情報収集やコミュニケーション、購買行動など生活の様々な場面に影響を与えています。それでは、次にどのようなICT端末が普及するのでしょうか。本公開講座では、今後の普及が有望視されているICT端末(ウェアラブルデバイス、コネクテッドカー・オートノマスカー、パートナーロボット)を取り上げ、その技術的背景や市場動向、事例を解説するとともに、これらのICT端末の普及が未来の暮らしに与える影響を展望します。



講師 環境学部 外川 正明 教授

人権セミナー

鳥取人権ゆかりの地を訪ねてPart2

— 鳥取兄弟太鼓の謎を追う —

とりぎん文化会館

7/14(木)
18:30~20:00

江戸時代、人々に時を告げたのは城から響く時太鼓の音でした。現存する時太鼓は、数少なくありますが、その大きさと音は鳥取城で打ち鳴らされていたもので、なんと口径140cm、胴長160cmもあり、しかも樹齢千年をこす一本のケヤキの巨木から製作された「三つの兄弟太鼓」だったのです。現在、賀露神社、名和神社、美保神社に奉納されているこれらの太鼓が、どのような人々によって製作されて鳥取域に置かれることになったのか。その謎を追う中で、全国に誇るこの「兄弟太鼓」には、当時、社会から差別を受けていた人々の素晴らしい技術とネットワーク、そして財力があつたことに気づき、また大切に保存されている末弟ともいべき四番目の太鼓とも出会うことができました。しかし、まだまだ残された謎があります。皆さんとともに、「鳥取兄弟太鼓の謎」にせまってみたいと思います。



講師 人間形成教育センター 中村 弘子 准教授

TOEIC® 講座 — 新形式問題対策を中心に — (全4回)

まちなかキャンパス

8/30(火)・9/6(火)・13(火)・20(火)
毎週火曜・19:00~20:30

申込締切:8/16(火) 定員20名

本年度5月の公開テストよりTOEICに新形式問題が導入されました。本講座では、新形式問題対策を中心に、リスニングおよびリーディングでの読解力向上に不可欠な語彙力、文法力、速読力の強化を図ります。より実践的なコミュニケーション力を伸ばすには構文の理解、フレーズの暗記、音声言語の知識も必要です。まずは英語力アップの土台となる基礎力を固め、各パートの攻略法を学び、実践的な問題を解きながら弱点を見極めます。毎回スコアアップのための自己分析を進め、弱点克服のための作戦を練り、リーディングセクションを最後まで終わらせる力を養うことを目指します。9月25日の公開テストに向けての4回講座です。